

東聖

明るい子 夢
がんばる子 力
やさしい子 心



令和3年6月24日6月号

命について考える①～人として「生きる」ということの意味～ 校長 成田 光弘

子供たちの学びの様子を見るために、短時間ですが毎日全部の教室を回るよう心がけています。すると、時々担任の先生の計らいで、子供たちから質問を受けることがあります。

低学年の教室では「校長先生の好きな果物は何ですか?」と、かわいい質問をされました。「ぶどうです。」と答えました。しかし、後で考えてみると飴やゼリー等では、確かにブドウ味が一番好きですが、果物としては桃や梨、サクランボの方が好きだったかもしれないと思いました。自分の回答が真実を伝えていなかったかもしれないと後悔するときもあります。

中学年の教室では「オレンジ色のホウセンカを見たことがありますか?」と訊かれました。理科担当の先生や担任の先生は「校長先生は、花の博士ですからね。」と私のことを持ち上げてくれるのですが、上がったのは私ではなく回答へのハードルでした。「見た記憶はないな。」と答えましたが、博士ではないので自信はありません。



高学年では、更に難しい質問が来ました。

「校長先生にとって『命』って、どんなものですか?」

「何にも代えがたい、とても大切なものです。」

と、答えました。確かに間違いでは無いかもしれませんが、子供の琴線に触れる回答ではなかったなと感じています。

道徳に「命の詩～電池が切れるまで～」という単元があります。「神経芽細胞腫」という重い病気に罹った宮越由貴奈さんという子が、闘病中の4年生の時に書いた詩をもとに、「命」について考える学習です。由貴奈さんは、命を人間が生きるための電池と表現しました。ただ、電池は切れたら取り替えられるけど、命は簡単には取り替えられない。だから、「私は命が疲れたと言うまでせいいっぱい生きよう」と決意します。この詩を書いた4ヶ月後、由貴奈さんは命を落としました。

命に限りがあることを感じていた由貴奈さんが、その命を最後まで一生懸命生きようとする姿や言葉には、尊さがあります。

私も命についてもう一度よく考えてみようと思いました。これから書く話は、子供が理解するには少し難しい話になります。お家の方に読んでいただき、もしなるほどという箇所がございましたら、子供たちが大きくなって、何かの機会に命についてまた考えたときにでも話していただけたらと思います。

何年か前に妻から安楽死を選択した女性を取材した番組の話を聞きました。その番組は、2018年、スイスで安楽死を行った1人の日本人女性のドキュメンタリーだったそうです。女性は重い神経難病を患い、自分らしさを保ったまま死にたいと願っていました。しかし、患者の死期を積極的に早める安楽死は日本では認められていません。そんな中、海外からも希望者を受け入れているスイスにある民間の安楽死団体の存在を知り、女性はそこで安楽死することを希望しました。番組は、この死を選んだ女性と彼女の選択と向き合い続けた家族の姿を描いたものだったそうです。私は病気ではありませんが、老いによって昔できたことが少しずつできなくなってきています。それは、仕方が無いと思いつつも寂しいことです。この過程が、病気によって加速度的に進んでいくとしたら、「辛い」とか「苦しい」とかそんな言葉では言い表せないような感情が胸中にはあるのだろうと思います。だとしたら、「安楽死」を望むという選択肢を選んだとしても咎めることはできない。そんな考えをもちました。自死の選択、それは家族にも深い傷を負わせることになります。事実家族は番組中、これで良かったのかと何度も自問自答していたそうです。決め手になったのは本人の次の言葉だと思っています。

「毎日毎日ただただ天井を見て暮らしている姿を見ても、苦しんでいる姿を見ても、

生きていて欲しいと言いますか? 私の心も正直痛かったです。」

その言葉はあまりにも重い。人としての命は、ただ生きていけばいいという単純なものではないと感じました。上の言葉を聞いた家族は何を考えたでしょう。彼女の気持ちを考えると、彼女に生きて欲しいと言うことが正解なのかどうか、よくわからなくなったのではないのでしょうか。

精一杯生きようとした由貴奈さん、それに対し、自死を選択せざるを得なかった女性、どちらも尊い生であり、死だと思っています。ただ、自死を選んだ彼女にも、「生きたい」という気持ちをもたせることはできなかったものか考えてしまいます。その解答にはならずともヒントとなるお話がありました。そのお話は、また今度。



緊急事態宣言解除～Tスポーツ2021開催へ

約1か月続いた北海道の緊急事態宣言が20日に解除されました。その間、運動会や遠足は延期となりましたが、すでにご案内のとおり、23日、24日の2日間に渡り、運動会の代替行事である「Tスポーツ2021」が開催されることになりました。

右は「東聖リズム体操2」の練習に励んでいる1年生です。運動会の延期が決まった後も、体育の時間などで毎回練習を重ねてきた1年生。今ではどの子も上手に踊れるようになりました。

今年度のTスポーツも、昨年同様、各学年ともに東聖リズム体操と徒競走は必須で、残りの団体種目は学年ごととなっています。

また、感染症対策と熱中症対策を考慮しながらの練習ということで、応援する時はマスク着用、運動する時はマスクを外すといった対応など、各学年、競技に応じて、確認しながら指導を行っていました。

7月は修学旅行、遠足など

7月は6年生が楽しみにしている修学旅行があり、感染状況が落ち着いてきておりますので、予定通り実施できそうです（5年宿泊研修は9/1、2の予定）。また、延期となっていた1～4年生の遠足も7/9（金）に実施します。

まだまだ、感染症対策については油断できませんが、やるべきことはしっかりと行いつつ、今できることにしっかりと取り組みながら、残りの1学期を充実させてほしいと思っています。

水道蛇口がレバー式になりました

新型コロナ対策に係る国からの交付金により、町内の各学校で校内の水道蛇口がレバー式のものになりました。



慣れてくると、直接蛇口を手でつかまなくても、水を出したり止めたりできるようになるので、衛生的であると言われています。

低学年は少し練習が必要なようです。



今後の主な予定（1学期）

- 6/30（水）午前特別日課 個人懇談①
 - 7/ 1（木）午前特別日課 個人懇談②
 - 7/ 5（月）午前特別日課 個人懇談③
保護者アンケート〆切
 - 7/ 6（火）午前特別日課 個人懇談④
 - 7/ 7（水）午前特別日課 個人懇談⑤
PTA 本部役員会②
 - 7/ 9（金）遠足（1～4年弁当持参）
 - 7/12（月）修学旅行1日目（6年）
 - 7/13（火）修学旅行2日目（6年）
 - 7/14（水）6年回復休業日
 - 7/16（金）遠足予備日（1～4年弁当持参）
 - 7/21（水）1学期終業式 5時間授業
- ※夏季休業 7/22～8/16
- ※2学期始業式 8/17（火）



お知らせ

- ① 先月お知らせしました「ユニセフ学校募金」について、合計 3,638 円集まり、ユニセフ財団の方へ振込を行いました。この募金はユニセフ本部に送られ、世界 150 以上の国と地域で様々な活動に役立てられるとのことでした。ご協力ありがとうございました。
- ② 「令和3年度上川南部PTA 連合会研究大会・教育講演会」について、今年度は富良野市で行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症への感染リスクが高いと判断され、中止となりました。PTA研修部においては、本研究大会への参加も活動内容として位置付けておりましたが、活動が一つ減ることになります。